

省みる（かえりみる）ことに関する一考察（「三省」のすすめ）

労働安全コンサルタント 湯田 亨

現場作業・現場指示において、「省みる」ということが、非常に重要なことであることは、明らかなことです。然るに多くの方々が、積極的に「省みる（反省する）」ことを行おうとしていないのが、現実ではないでしょうか？

そればかりではなく、せつかく省みて「失敗、間違い、もっと良いこと等」に気付いても、自分のメンツ・見栄・体面に拘泥したり、命じた作業員さんに遠慮する等し「失敗の修正・もっと良いこと・間違いの補正等」を行わない事例を、しばしば見かけます。

そのような方々は、一度立ち止まり、自分を「三省」することが必要なのではないのでしょうか。

(参考：三省)

「論語」の学而編：「吾日に吾が身を三省す。人の為に謀りて忠ならざるか、朋友と交わりて信ならざるか、習わざるを伝えしかと」
訳文：「私は、一日に何度も何度も自分の行動を振り返って反省いたします。

- ・ほかの人に対して、陥れるような謀りごとをしなかったか？
- ・友の信用を無くすようなことを、していなかったか？
- ・自分が納得もしていないことを、他人の受け売りで、誰かに教えなかったか？と。」

ここに言う「三」とは、「数多く何回」も、という意味です。

私は高校時代、【三省】を、「寝る前にその日にあったことを省みる。朝起きたとき、昨日のことを振り返る。何かやったことが一段落したとき、そのやったことを反省する。これなら、君たちでもできるだろう。」と、教わりました。

省みるときに重要なことは、「ホムンクルス（冷静なもう一人の自分）」との対話を行いながら、冷徹に現実を見つめ「現地・現物・現実」を見ながら、「原理・原則」に従って、自己分析を行う事です。

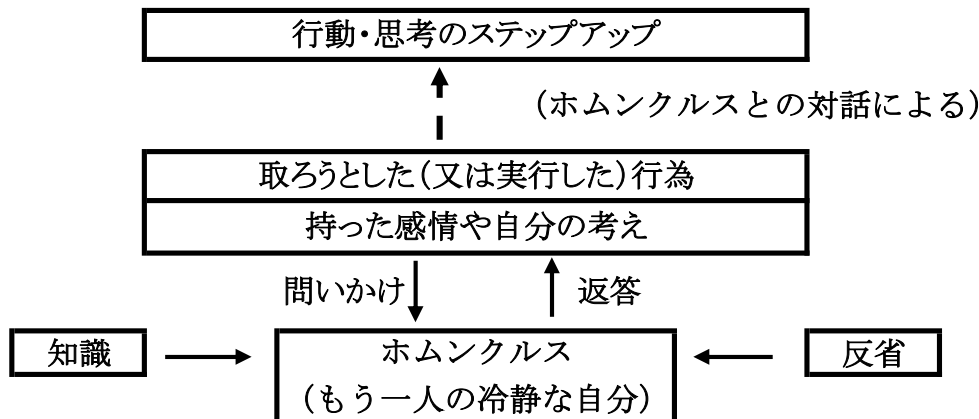
(参考：ホムンクルス Homunkulus)

ホムンクルス：錬金術によって生み出された人工生命体のこと。又は、認知心理学において、自分を見つめる冷静な、もう一人の自分のこと。

我々は人間です。コンピューターでさえバグが起きたりします。『神様だって間違う、だって人間を作ってしまったのだから！』等という人もいるくらいです。

『絶対に間違いは許さない！』という人もいますが、その方々の多くは「他人に厳しく自分に甘い」傾向があることも、また、事実です。人間には「ヒューマンエラー」がつきものです。「ヒューマンエラー」ありきでものごとを考えることが、重要なのです。

絶えず、もう一人の冷静な自分と向き合い、会話し、間違い等を省み、是正し、必要なこと、なすべきことをなすことが、組織においても、私生活においても必要なことであるものと思われれます。「三省」のあるべき姿を実現していくことが、重要なのです。



(以 上)